

# 徳川みらい学会第4回講演会

## 「徳川時代の人々がみた星空」

大阪市立科学館 主任学芸員 嘉数次人氏



徳川みらい学会の第4回講演会を10月14日(水)、静岡市民文化会館で開催しました。講師は大阪市立科学館の嘉数次人主任学芸員。徳川時代の天文学の変遷についてお話しいただきました。要旨は次のとおりです。

### 天文と暦学

古代から日本では中国の天帝思想という考えがあり、民衆は星空に恐れを抱いていました。天地・万物を支配する神がいて、地上の支配者が天命を受けるといった考えですから、星空を見上げることになる天文学は支配者が行う学問でした。為政者が天空に起こるさまざまな現象を見て吉凶を占う「天文」と、月の満ち欠けや太陽の動きで暦を編む「暦学」が、近代の終わり頃までの天文学でした。

### 徳川時代初期の改暦

日本では古代から中国の暦計算法(暦法)を輸入して用いました。中世には唐王朝の宣明暦を採用しましたが、その後は天文学の衰退などから、800年以上にわたり改暦されずに使用されました。

徳川時代初期になると、長期にわたり使われていた宣明暦では実際の空との誤差が生じてきました。天文暦学者である渋川春海は中国元王朝で使われていた授時暦で改暦を求めましたが、その後の日食予報が外れたことから申請は却下されました。予報が外れた理由は中国と日本との時差があったからで、その後これを改良した大和暦を作成し、見事採用されました。1685年、当時の元号から貞享暦と命名された暦は日本初の国産暦であり、渋川春海は初代幕府天文方に任ぜられました。この改暦を機に毎年暦の編集権が朝廷から幕府に移っています。

### 吉宗による西洋天文学の導入

渋川春海が亡くなった翌年1716年に將軍に就いた8代將軍吉宗は天文学に大きな関心を抱いており、自ら簡天儀・測午儀などの実用的な観測装置を考案し、城内吹上御庭などで天体を観測しています。また禁書令を緩和し、西洋の天文暦書をもとに西洋暦を導入して改暦を行おうと努めました。志半ばで死去してしまいます。

禁書令の緩和により、民衆の間にも西洋天文学の知識が広まりました。豊後の麻田剛立は当時の宝暦暦に記されていなかった日食を独自の計算により予言的中させ、名声を高めました。

### 民衆による改暦

1797年、麻田剛立の弟子である高橋至時と間重富は幕府による改暦事業に招かれ、初めて西



洋天文学を取り入れた寛政暦という暦法を作成しました。その後天文方に抜擢された高橋至時は、これまでの中国語に翻訳された西洋天文暦書ではなく、オランダ語の書物を直接翻訳し、暦法の精度を高めていきました。最終的には1844年に天保暦に改暦され、1872年、明治初頭まで使用されることになったのです。



個人・法人会員を随時募集しています。皆さまのご入会をお待ちしております。

〈お問い合わせ〉徳川みらい学会事務局 〈TEL〉284-9660 〈HP〉

徳川みらい学会

検索